

2021年6月11日
ジャパンサーチ連携説明会

ジャパンサーチとの連携

東京大学学術資産等 アーカイブズポータルの場合

東京大学情報システム部情報基盤課
学術情報チーム（デジタル・ライブラリ担当）
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp

東京大学学術資産アーカイブ化推進室
digital-archive@lib.u-tokyo.ac.jp

松原恵



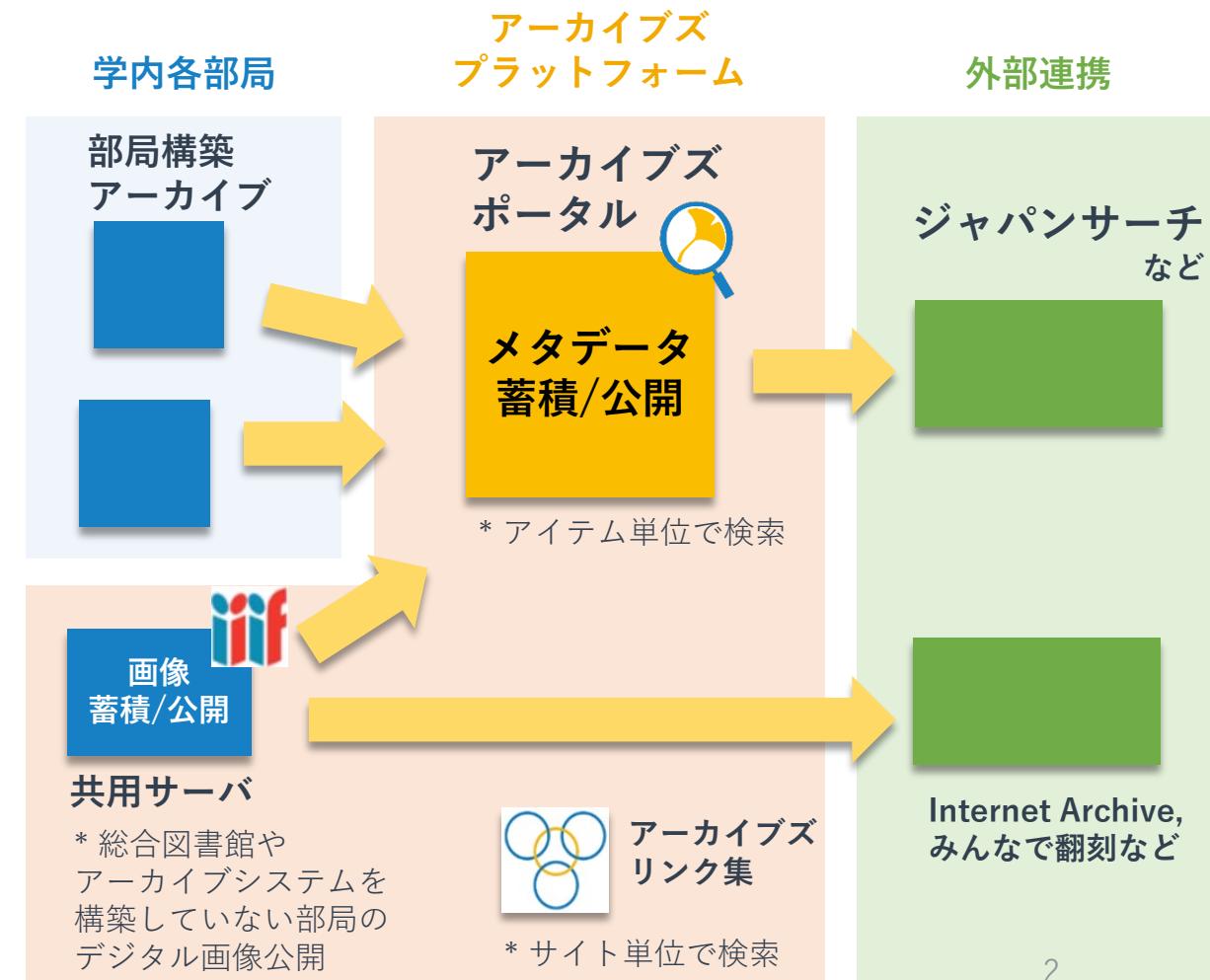
この資料は、[クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンス](#)のもとに提供されています。



東京大学学術資産等 アーカイブズポータルとは

- 2019年6月公開
- 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業において構築
- 学内の各部局が構築したコレクションのメタデータを許諾のもと収集、横断的な検索・提供を可能に
- 東京大学の学術資産等の**データ流通のハブとして**、外部システムとの連携を行う

<https://da.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/portal/>



「つなぎ役」となった経緯

経緯

- 2019年6月
アーカイブズポータル公開
- 2019年7月
ジャパンサーチ連携打診
- 2019年11月
連携開始

学内調整

- 当初より外部連携を想定して
システム構築
- 方針の策定と部局への説明
 - 事業でのデジタル化予算配分
 - 部局の負担を抑えたフロー設計

政策	✓ 東京大学ビジョン2020 ✓ デジタルアーカイブズ構築事業
意思決定の 仕組み	✓ 学術資産等アーカイブズ委員会 (大きな方針) ✓ 学術資産アーカイブ化推進室 (実務的なこと)
プロジェクト 管理	✓ 工程表に基づく目標設定と現在地の確認 ✓ 実務者打ち合わせによるタスク管理
人員	✓ アーカイブ構築の知見・経験・技術の ある教員 ✓ アーカイブ構築や原本資料に関する 知識・経験のある図書館員 ✓ リポジトリやメタデータ設計に関する 知識・経験のある図書館員

ジャパンサーチとの連携手続き

メタデータマッピング

- ・アーカイブズポータルに登録する時点で**データ構造を統一**
- ・ジャパンサーチ連携の際には簡易なデータ定義で対応可能

ライセンス

- ・総合図書館は2018年から「CC BY相当」でデジタル画像等をオープン化
- ・ジャパンサーチとの連携は、各部局が**画像のみならずメタデータも**オープン化するきっかけに

CSV連携

- ・アーカイブズポータル側でOAI-PMH出力後、独自のプログラムでCSV変換し、登録
- ・OAI-PMHでの自動連携はマッピングの問題などからできていない

ジャパンサーチと連携して

ジャパンサーチの機能の利活用

- SPARQLエンドポイントサービス
 - 連携前：データ利活用のために本学独自に構築
 - 連携後：ジャパンサーチの同サービスを活用
- 電子展示
 - 連携前：電子展示ページを独自に構築
 - 連携後：ジャパンサーチの「ギャラリー」機能を活用試行中

所蔵部局にとってのメリット

- アーカイブズポータルと連携するだけで外部連携もできる
- ライセンスについて検討する契機となる

アクセス数について

今後の課題と展望

本学の課題

- ・データの自動連携
- ・ギャラリー機能など「つかう」機能の活用

ジャパンサーチへの期待

- ・どのように「つながり」「つかわれて」いるのか?
 - ・活用例まとめページの拡充
 - ・統計機能の拡充
- ・どのように探されているのか?
 - ・検索エンジン対策も



東京大学総合図書館所蔵
『写真帖『東京帝國大學』明治37年(1904)年版』より
「史料陳列室」を改変